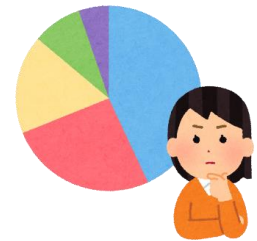


厳しい暑さが連日続いていますね。令和5年度がスタートして早3か月、1学期の終業式を迎えました。この間、1年生は高校生活に慣れ、2年生は系列での学びがより専門的に、3年生は進路決定に向けた準備が本格化しているところでしょうか。

社会では、新型コロナウイルス感染症が「2類」から「5類」へと引き下げられ、日常生活も、「ウィズ・コロナ」という考え方で、対策をとりながらも通常的生活を送れるようになってきました。また、『子ども家庭庁』が発足したり、通称『LGBT 理解増進法』が成立したりと、人権に関する大きな動きもいくつかありました。

そんな1学期の、学校における人権に関する話題をまとめましたので、夏休みの間に振り返ってみてください。

4月 『人権に関する意識調査』結果より



4月上旬に、全校生徒の皆さんを対象に、意識調査を実施しました。特に気になる回答の傾向があったものについて、3つだけ紹介します（下表）。

質問		回答	
1	あなたは、自分自身の人権が尊重されていると思いますか。	思う	69.1%
		やや思う	28.4%
		あまり思わない	1.6%
		まったく思わない	0.8%
2	あなたは、身近な地域や学校など身の回りで差別があると思いますか。	あると思う	18.9%
		ないと思う	26.3%
		わからない	54.7%
3	（2で「ある」と回答した人） あなた自身の身の回りで特に強く感じる差別はどのようなものですか。《3つまで》	容姿や外見（顔や身体つきなど）、身なりによる差別	24人
		障がいのある人に対する差別や偏見	19人
		インターネット・SNS 上での差別や人権侵害	12人

（4月『R5 邇摩高校 人権に関する意識調査』より：回答数 243）

- ①1について… ほとんどすべての人が「人権が尊重されている」と回答しています。しかし、全校生徒のうちの2.4%は、「人権が尊重されていない」と回答しています。「すべての人の人権が尊重されている（大切にされている）」ことは、学校生活を送るうえで大前提として必要なことですが、それが実感できない人がいるということです。
- ②2について… 回答がわかれています。差別があるかどうか「わからない」と回答している人の割合が最も高いです。「差別があるかどうか、気づき、見抜く力」を磨くことが、多くの人に求められていると言えそうです。
- ③3について… 身の回りに差別があると感じている人は、特に「容姿や外見、身なりによる差別」を強く認識していることがわかりました。「身近に差別がある」ということは、残念ながら、「身近に差別する人がいる」ということです。「差別する側」に立たない、あるいは「差別を許さない」態度と行動を、誰もがとる必要があります。

また、調査の中で、『“いじめ”ではないと思うが、傍から見ればいじめに見えるような“いじり”を見たことがある』と記述してくれた人もいました。このことは、「笑いの種類」として、全校集会でも話をさせてもらいました。

◎ **「ふざけ」** … 自己中心的で周りに迷惑をかけるような笑い

⇒「悪ノリ」に発展したり「開き直り」になったりすると、
いじめや差別などにつながる

◎ **「いじり」** … 相手との信頼関係がなく、嫌な思いをさせているだけなら「いじめ」※

※「いじめ」とは、一定の人的関係にある生徒から心理的・物理的な影響を与えられることにより、本人が心身の苦痛を感じているものを言います（生徒指導部長の説明より）。

5月 全校集会『人権感覚を磨き続けよう』

5月17日の全校集会では、人権感覚を磨き続けることの大切さと、人権感覚を磨き続けるために必要なこととお話ししました。違いを認め合い、否定や攻撃ではない方法で「誰もが納得できる」よりよい学校を、皆さんの力でつくりあげてほしいです。

◎ **「人権感覚」** = 偏見にとらわれず、様々なものの見方ができる力・感性のこと

人権感覚を磨くために…

①意識化する ②決めつけない・思い込まない ③相手と対話する

1 学期 各学年『人権に関するホームルーム活動』

各学年でおこなわれたホームルーム活動の感想を紹介します。活動で得た「気づき」を日頃の「行動」に生かすことができているでしょうか。3年生は「本番」が近づいてきますが、不適切な質問に直面してしまったときに適切に対応するための「練習」はもちろん、「なぜこの学習が必要だったのか」という視点で振り返ってみてください。また、2年生の学習では「アライ」という言葉が出てきました。1・3年生は、この言葉が何であるのかぜひ調べてみて下さい。邇摩高校の誰もが、「アライ」になることのできる優しさや感性を持ち合わせていると思っています。胸を張って「アライ」であれるように、自分自身を磨いていきたいですね。

【1年生】学習テーマ：『多様性の尊重とコミュニケーション』

- ★ねらい ①多様な価値観を認め合いながら、互いに理解を深めていこうとする意欲を高める。
②他者との協働やコミュニケーションの大切さについて気づき考える。

＜皆さんの感想より＞

- ① 同じクラスの人でも全く違う考えを持っている人が多いということが分かった。今日の活動を通して、自分は多数派の意見だったけど、自分の意見とその理由をしっかりと伝えられるようにしたいと思った。また、自分が多数派意見でも少数派意見でも、自分とは別の考え方を尊重したい。
- ② 最後のゲームでは、“協力”ということ学びました。一人で挑戦するよりみんなと協力して行うことで、いろいろな考えや価値を得ることができます。これから、さまざまな価値観をもつ人と交流が増えるため、自分の意見を大事にしつつ、いろいろな意見も尊重していきたいと思います。
- ③ 一人で集中して取り組むのもいいけど、声を出してやってもいい2回目のほうが、時間も少し早くできたし、交換したりもできてやっていて楽しいなと思えた。完成したときに「やった」と喜び合えたり、終わってない人を手伝うこともできたので良かったと思う。今日のような楽しい活動だけでなく、苦手な内容や普段の生活のなかでも、同じように周りの人と協力することで、自分や周りの人も楽しめるような生活にしていきたいと思った。



【2年生】学習テーマ：『マジョリティという特権』

- ★ねらい ①特権を持つ人（マジョリティ）と特権を持たない人（マイノリティ）という立場によって社会生活の視点が異なることを理解する。
②自分と異なる立場の人や社会的に弱いとされる立場の人に対して、自らがどのように接することが重要か、考える。
③アライの視点を持ち、今後の学校生活を送ることができるきっかけをつくる。

（右へ続く）

<皆さんの感想より>

- ① 「自分は被害者ではないから関係ない」という思いが強かったと思います。困っている人、嫌がっている人がいれば、声をかけてあげて、目を背けることはしたくないと思いました。
- ② その時々で少数派の人がいたときには、自分としては声をあげている気がする。言う側にも勇気があると思うが、特権がないとされる人の気持ちを考えて、平等になるためならと思い発言・行動しようと思えた。
- ③ 自分は何もしていない・本人には何も責任がない、それなのに初めから公平でないということであれば、自分が「特権」を持たない人の立場にたって、気持ちを知り行動したいと思います。



【3年生】学習テーマ：『就職差別について知り、考える』

- ★ねらい ①就職試験や進学試験における差別的選考の実態を学び、差別を見抜く力を養うとともに、自らの人権を守り、差別の解消を目指し毅然と取り組む姿勢や態度を身につける。

<皆さんの感想より>

- ① 今回の学習を通して、就職差別はあつてはならないことで、不適切な質問をされたらきちんと断らないといけないことが分かりました。本人の適性や能力に関わること以外のもの、憲法で保障された権利を侵害するものは、聞かれても答えずに対処する。きちんと見極めて挑みたいと思います。
- ② 面接編で、10個の質問の中から3つは見抜くことができました。「尊敬する人物」についての質問は不適切だと知ることができました。瞬時に判断して「学校の指導により、お答えできません」という対応ができるのか少し不安ですが、これからある練習で経験を積んで、焦ることなく対応できる力をつけたいです。書類に関しても、何が良くて何が悪いのか、判断できるようになりたいです。
- ③ 公正な選考のために大切なことは、どの質問でも本当に適切かどうかきちんと判断することだと思っています。本人の意欲・能力・適性をきちんと聞かれているのか、本人以外のことを聞かれていないかということ、自分で判断できるようになること、差別につながるか見抜くことが大切だということが分かりました。おかしいなと思ったら、すごく勇気のいることだけど、勇気をもって伝えるということが大切なことだと分かりました。



*今年度も『なりすな』と題して人権教育便りを発行することにしました。タイトルには、琴ヶ浜に広がる「鳴り砂」のように、生徒のみなさんが互に関わり合い、切磋琢磨しながら、個性豊かな音色を響かせることができるようにとの願いを込めています。生徒の皆さんはこの便りを持ち帰り、家庭等でも「人権」について語り合うきっかけにしてください。

<人権教育推進スタッフ：森脇・山岡・小村・青木・小中>